

## 計量経済 II : 宿題 14

村澤 康友

提出期限 : 2021 年 1 月 31 日

注意 : すべての質問に解答しなければ提出とは認めない。授業の HP の解答例を正確に再現すること (乱数は除く)。グループで取り組んでよいが、個別に提出すること。解答例をコピーしたり、他人の名前で提出した場合は、提出点を 0 点とし、再提出も認めない。すべての結果をワープロ文書に貼り付け、pdf ファイルに変換して提出すること。

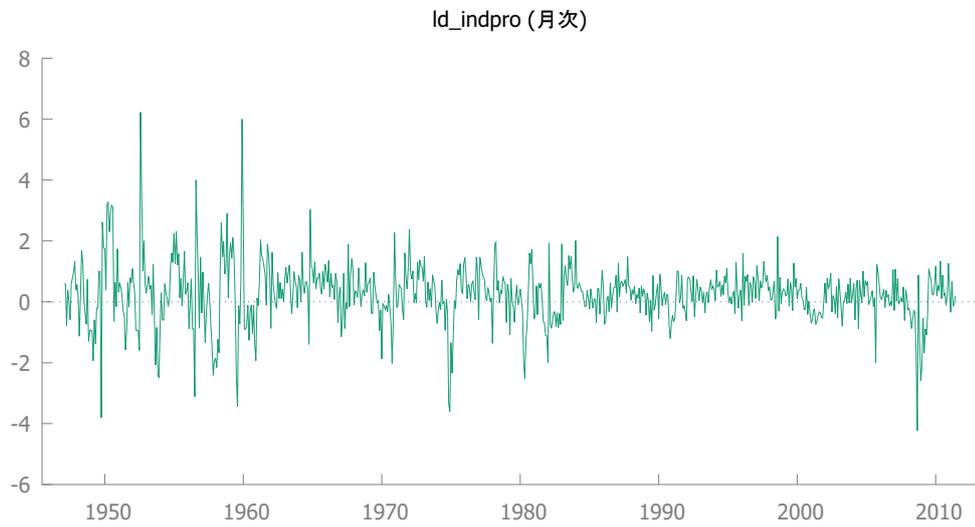
1. gretl のサンプル・データ `gdp.midas` は、1947 年第 1 四半期～2011 年第 2 四半期のアメリカのマクロ経済の混合頻度時系列データであり、以下の変数を含む。
  - (a) 実質 GDP (四半期)
  - (b) 非農業雇用者数 (月次)
  - (c) 鉱工業生産指数 (月次)鉱工業生産指数の対数階差系列の時系列グラフを以下の 2 つの手順で描きなさい。
  - (a) 変数を選んで右クリックし、「時系列グラフを描く」を選択 (1 系列になる)。
  - (b) メニューから「表示」→「変数のグラフ」→「時系列プロット」として変数を選択 (3 系列になる)。
2. gretl で MIDAS 回帰モデルを推定する手順は以下の通り。
  - (a) メニューから「モデル」→「一変量時系列」→「MIDAS」を選択。
  - (b) 「従属変数」を 1 つ選択。
  - (c) AR 次数を選択 (コイック・ラグなしなら 0)。
  - (d) 「説明変数 (回帰変数)」を選択 (低頻度変数)。
  - (e) 「高頻度説明変数」選択し、分布ラグの定式化を設定。
  - (f) その他は必要に応じて設定 (基本的にデフォルト値のままでもよい)。
  - (g) 「OK」をクリック。また推定結果の画面のメニューから「グラフ」→「MIDAS 係数」で分布ラグの推定結果を図示できる。前問のサンプル・データの実質 GDP と鉱工業生産指数の対数階差系列を用いて MIDAS 回帰モデルを以下の 2 つの定式化で推定し、分布ラグの形状をグラフで比較しなさい。
  - (a) U-MIDAS (-2 から +3 次の分布ラグ, コイック・ラグなし)\*<sup>1</sup>
  - (b) 2 次の正規化指数アーモン・ラグ (同上)

---

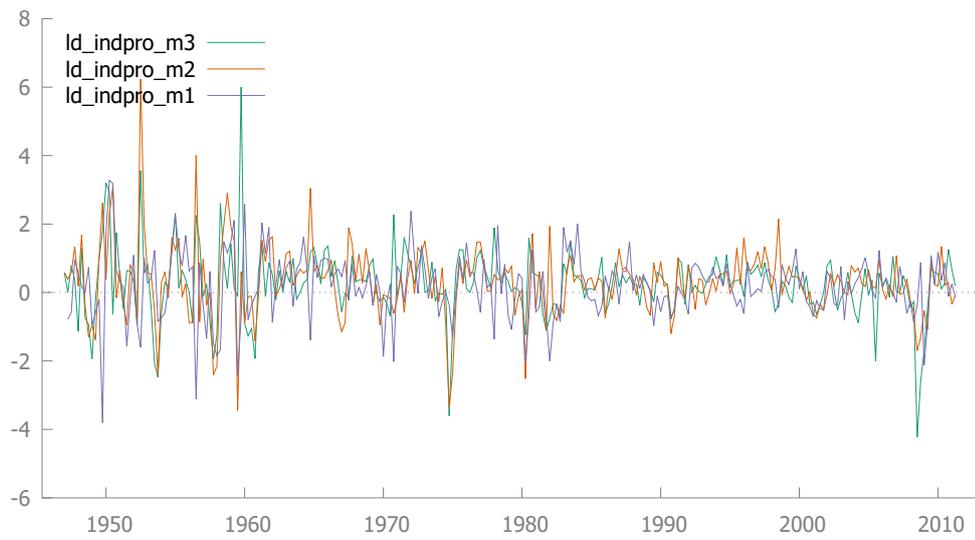
\*<sup>1</sup> gretl は期首に低頻度系列を観測すると想定している。例えば第 1 四半期は 1 月に  $(x_1, y_1)$ , 2 月に  $x_{1+1/3}$ , 3 月に  $x_{1+2/3}$  を観測する。そのため期末に低頻度系列を観測する場合 (例えばフロー変数), 分析の際に時点をずらす必要がある。

解答例

1. (a) 右クリック



(b) メニュー

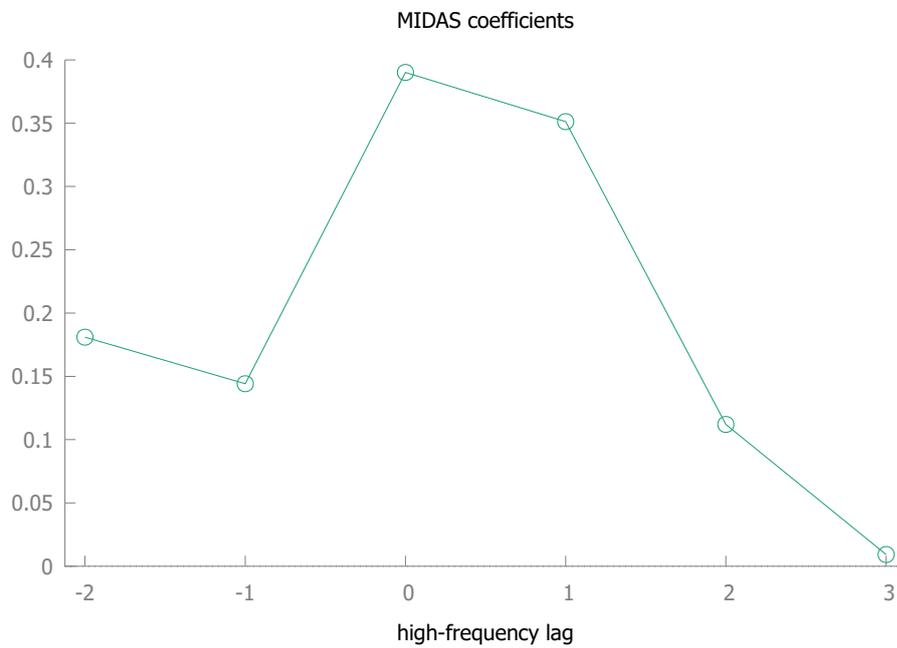


2. (a) U-MIDAS

モデル 1: MIDAS (OLS), 観測: 1947:3–2011:2 ( $T = 256$ )

従属変数: ld.qgdp

	Estimate	標準誤差	$t$ -ratio	p 値
const	1.32718	0.0556330	23.86	0.0000
ld_indpro_m3_0	0.180955	0.0628032	2.881	0.0043
ld_indpro_m2_0	0.144163	0.0609751	2.364	0.0188
ld_indpro_m1_0	0.390132	0.0620210	6.290	0.0000
ld_indpro_m3_1	0.351218	0.0668641	5.253	0.0000
ld_indpro_m2_1	0.112033	0.0599286	1.869	0.0627
ld_indpro_m1_1	0.00930043	0.0566786	0.1641	0.8698
Mean dependent var	1.614566	S.D. dependent var	1.142532	
Sum squared resid	166.4931	S.E. of regression	0.817708	
$R^2$	0.499828	Adjusted $R^2$	0.487776	
$F(6, 249)$	41.47146	P-value( $F$ )	6.99e-35	
Log-likelihood	-308.1796	Akaike criterion	630.3593	
Schwarz criterion	655.1755	Hannan-Quinn	640.3403	
$\hat{\rho}$	0.458329	Durbin-Watson	1.082486	



(b) 2 次の正規化指数アーモン・ラグ

モデル 2: MIDAS (NLS), 観測: 1947:3–2011:2 ( $T = 256$ )

Using L-BFGS-B with conditional OLS

従属変数: ld\_qgdp

	Estimate	標準誤差	t-ratio	p 値
const	1.32071	0.0556325	23.74	0.0000
MIDAS list ld_indpro, high-frequency lags -2 to 3				
HF_slope	1.18549	0.0820243	14.45	0.0000
Almon1	2.00000	0.596568	3.353	0.0009
Almon2	-0.312483	0.0943967	-3.310	0.0011
Mean dependent var	1.614566	S.D. dependent var	1.142532	
Sum squared resid	169.4660	S.E. of regression	0.820051	
$R^2$	0.490897	Adjusted $R^2$	0.484836	
Log-likelihood	-310.4450	Akaike criterion	628.8901	
Schwarz criterion	643.0708	Hannan-Quinn	634.5935	
$\hat{\rho}$	0.467937	Durbin-Watson	1.063220	

GNR:  $R^2 = 0.00030858$ ,  $\max |t| = 0.278902$

警告: 収束は疑わしいです

